

■学校関係者評価
 ○熟議の中での意見を生かし、地域・地域の団体と連携した芦生グリーンワールドやカラフル野菜の取組をすることができていた。
 ○授業等を通して学校の様子や学校運営の様子を地域の方にも知ってもらう機会が必要ではないか。
 ○子ども同士の関係や子どもと教師とのよい関係づくりが必要である。
 ○基本的生活習慣の確立のための家庭啓発、体力向上に向けての工夫をする。

■保護者・地域アンケート結果
 ○地域と連携した学年毎の取組があり、学習の成果としての発表の機会があることは大変よいことである。カラフル野菜やホームステイの取組は本当によかった。
 ○子どもの自主性や主体性も活かし、行事等に取り組ませてほしい。
 ○体を動かしたりする時間をもっとあればよい。

★学校教育目標
「ふるさとを愛し 夢や希望に向かって 自らを高める 美山っ子の育成」

《目指す児童像》
み 自ら考え、豊かに表現する子
や やさしく、思いやりのある子
ま まっすぐ伸びるたくましい子

◆児童が生き生きと活動し成長することを保護者・地域・教職員が手を携えて取り組む学校

■第三者評価
 美山小学校の教育活動について、家庭・地域ともに概ね肯定的に評価されており、日常の実践が協働で展開されている様子がうかがえる。特に、地域コーディネーターを介して、ふるさと美山からの学び、ふるさと美山を学ぶ機会が充実しており、地域に対する関心や愛着が日頃から醸成されていることがわかる。
 ただ、それぞれの項目において、学年によって満足度や達成度の違いがあり、そのことが保護者の学校教育に対する理解や支援に影響している部分があるようにも思われる。

○様々な取組を通して、児童の他人に対する思いやりや人権尊重の精神が育っている。
 ○休み時間に積極的に遊ぶ児童が増えており、運動好きの児童が増加するとともに運動機会が拡充されている。

学校経営の重点(短期経営計画)	成果	評価	課題	改善策等
<p>◆人権教育・仲間づくり</p> <p>○同学年や異学年との活動・取組を通して、児童同士のつながりを深め、自己存在感・有用感を高める。 ※「仲間のために力を発揮した、役に立っている、喜んでもらった」等で肯定的に回答する児童80%以上 「自分のよいところを知っている」で肯定的に回答する児童80%以上</p>	<p>○児童会や人権旬間の取組、運動会等の異年齢での活動を通して、児童が互いを認め合うという意識を高めることができた。 ○「聴く」ことができる児童が増えてきた。 ※「仲間のために力を発揮した、役に立っている、喜んでもらった」等で肯定的に回答する児童 70% 「自分・仲間・友達の良いところを知っている」で肯定的に回答する児童 80%</p>	B	<p>○自分たちで考え行動しようとする自主性・主体性を育てる。 ○仲間と協働する活動を通して、自己肯定感・自己有用感を高める。 ○自分の考えや行動を自分自身で振り返り、規範意識や人権意識を高める。</p>	<p>○日常の関わりや授業での指導、特別活動の取組を通して、活躍できる場を意図的に作る。 ○人権や自分自身・仲間に関することに重点を置いた年間指導計画を作成し、道徳の指導にあたる。</p>
<p>◆授業改善・確かな学力</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」を目指し、ともに学ぶ合うことを通して、どの子も「わかる・できる」が実感できる授業改善に取り組む。(児童全員に対する「指導の工夫」と同時に、「個別の配慮や支援」を行う。) ※学習内容が「わかる・できる」と肯定的に回答する児童80%以上</p>	<p>○校内授業研究会(事前・授業・事後)をすべての学年で行い、成果・課題を共有しながら、日々の授業に向かうことができた。 ○補充学習の時間や休み時間・放課後等の個別指導により、基礎基本の学習内容の定着を図ることができた。 ※学習内容が「わかる・できる」と肯定的に回答する児童80%</p>	B	<p>○教員の指導力のさらなる向上を図る。 ○新学習指導要領の全面実施を踏まえ、評価方法に関する工夫改善を図る。 ○個別の教育的ニーズに対応できる学習機会や校内体制で支援できるようにする。</p>	<p>○校内授業研究会や他校での研究会・研修会を通して、授業実践力を向上させる。 ○めあてや見通しを持たせたり、振り返りを児童に意識させたり、授業展開を工夫する。また、個別・グループ・全体と形態を工夫し、練り合う時間や発表・表現するなどメリハリをつける。 ○支援体制のあり方や体制を整備する。</p>
<p>◆健康安全・体力向上</p> <p>○遊びや運動の楽しさと喜びを味わいながら、体力と運動能力の向上を図る。 ※「運動が好き、体力づくり頑張る」と肯定的に回答する児童80%以上</p>	<p>○中間・昼休み・放課後等、体育館やグラウンドで遊ぶ児童が増えている。 ○陸上や駅伝の練習に高学年を中心に積極的に取り組むことができた。 ※「運動が好き、体力づくり頑張る」と肯定的に回答する児童80%</p>	B	<p>○朝の体力づくりの時間の効果的な活用と体育科の授業での運動量を確保できるよう授業を工夫する。 ○健康作りや体力向上に関して児童や家庭へ啓発する。</p>	<p>○朝の体力づくりの取組の継続と体幹づくりを意識した体育の授業を実施する。 ○保健・学校だより等を使った啓発や食育に関する授業等体づくりに関する授業を計画的に実施する。</p>
<p>◆地域連携・地域とともにある学校</p> <p>○コミュニティ・スクールとして、地域と協働で教育活動を展開し、地域を深く学ぶ学習の充実を図る。 ※「地域のよさを学ばせている、地域に親しみ・関心を持たせている」等で肯定的に回答する保護者・地域回答90%以上</p>	<p>○芦生グリーンワールド・ホームステイ・カラフル野菜など、地域と協働した取組を教育課程の中で実施することができた。 ○今後の取組について、関係団体や地域コーディネーターを交えて会議をすることができた。 ※「地域のよさを学ばせている、地域に親しみ・関心を持たせている」等で肯定的に回答する保護者・地域回答 90%</p>	A	<p>○新学習指導要領の全面実施を踏まえ、取組等についてのねらいや6年間・学年の年間計画の見直しと、地域と協働できる取組について検討する。 ○地域コーディネータの積極的な活用や学校運営協議会や地域学校協働活動に対する保護者への啓発を行う。</p>	<p>○年度内に、地域コーディネータと連携し、取組のねらい・年間計画を検討する。 ○学校運営協議会の運営等について中学校と密に連携する。 ○学校運営協議会や地域学校協働活動に対する保護者への情報発信や取組への参加の呼びかけや参加しやすい場の設定等の工夫をする。</p>
<p>◆働き方改革・学校の組織力向上</p> <p>○校務支援システムを効果的に活用し、校務処理の省力化・効率化・見える化を図り、業務改善をさらに推進する。 ※「業務の省力化・効率化・見える化が図れた」と実感する教職員が80%以上</p>	<p>○校務支援システムを活用して、通知表等を作成し、校務処理の省力化ができた。 ○教頭の声かけや助言により、在校時間を意識して勤務できる教職員が増えてきた。 ※「業務の省力化・効率化・見える化が図れた」と実感する教職員 60%</p>	C	<p>○これまでの慣行として行われてきたことでも必要性・妥当性がないものは、見直していく。 ○授業準備・児童と関わる時間等が確保できるよう教育課程を工夫改善する。</p>	<p>○事前に資料を準備・配布するなど効率的に職員会議等ができるようにする。 ○校務分掌を活かし、校務・業務の役割分担を明確にする。特に、行事等の取組については、担当者が、教職員を協働的に・組織的に動かすことを意識して、提案する。</p>

■今年度の成果
 ○異年齢での活動を通して、お互いを認め合う・支え合うという意識を高めることができた。
 ○補充学習や個別指導等の取組を通して、基礎・基本の定着を図ることができた。
 ○集会や授業等の場面で、「聴く」ということを意識できる児童が増えた。
 ○熟議の中で出てきたことを、地域と協働した取組を教育課程の中で実施することができた。
 ○勤務時間を意識し、教員が業務内容を考えることができた。

■次年度の課題
 ○質の高い学力を育む。(基礎的・基本的な知識・技能の習得、知識・技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む意欲・態度)
 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を目指す。
 ・新学習指導要領に対応できる教育課程の編成をする。
 ○地域連携(熟議、小中一体となった地域連携組織の構築、協働取組等)を推進する。
 ○校務支援システムを活用し、仕事の効率化・見える化と児童と向き合う時間を増やし、教職員のやりがい・充実感を高める。